

死刑を考える日
映画「教誨師」上映会 入場無料！予約不要！

死刑囚6人との対話が始まる。

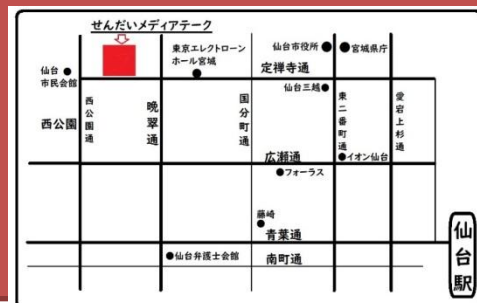


教誨師とは、
受刑者の心の救済につとめ、
彼らが改心できるよう
導く人。



日 時：2019年12月21日土曜日
上映時間：①10：45～ ②13：15～ ③15：45～
場 所：せんだいメディアテーク7階スタジオシアター
(仙台市青葉区春日町2-1)
※上映時間114分

主催 仙台弁護士会
共催 日本弁護士連合会、東北弁護士会連合会
お問い合わせ先
仙台弁護士会事務局 TEL 022-223-1001



仙台駅



教誨師とは……受刑者に対して道徳心の育成、心の救済につとめ、彼らが改心できるよう導く人。

わが国ではおもに諸宗教の聖職者がボランティアでその任にあたる。

なぜ、生きるのか。

牧師の佐伯は、半年前に着任したばかりの教誨師。彼が面会するのは一癖も二癖もある6人の死刑囚。真剣に思いを吐露する者もいれば、くだらない話に終始する者もいる。一方の佐伯は彼らに寄り添いながらも、自分の言葉が本当に届いているのか、死刑囚たちが心安らかに最期を迎えられるよう導くのは正しいことなのか苦悩する。その葛藤を通し、彼もまた自らの人生と向き合うことになる…。ほぼ全編が教誨室という限られた空間での会話劇ながら息つく暇もなく、時にユーモアを交えて展開される魂のぶつかり合い。次第に浮き彫りとなるそれぞれの人生、そして人間の本質。“死”の側からとらえた強烈な“生”の物語が誕生した。



自己中心的な若者
——高宮

おしゃべりな関西の中年女
——野口

お人よしのホームレス
——進藤

家族思いで気の弱い父親
——小川

心を開かない無口な男
——鈴木

気のいいヤクザの組長
——吉田

大杉漣、最初のプロデュース作にして最後の主演作

主演の佐伯に大杉漣。その膨大なセリフ量とユニークな内容ゆえ、「役者にケンカを売ってるのかと思った」と評した脚本を全身全霊賭けて体現、圧巻の存在感を見せる。対する死刑囚役に光石研、烏丸せつこ、古館寛治といったベテラン俳優や映画初出演となる劇団「柿喰う客」の玉置玲央らが扮し、限りある命を持つ者同士、激しい火花を散らす。監督、脚本は死刑に立ち会う刑務官を描いた『休暇』(08)の脚本を手がけた佐向大。

教誨師

大杉漣 玉置玲央 烏丸せつこ 五頭岳夫 小川登/古館寛治・光石研 | エグゼクティブプロデューサー: 大杉漣 狩野洋平 押田興符 | プロデューサー: 松田広子 | 撮影: 山田達也
照明: 玉川直人 | 録音: 山本タカキ | 美術: 安藤真人 | 衣裳: 宮本茉莉 | ヘアメイク: 有路涼子 | 編集: 橋本一美 | 助監督: 玉澤恭平 | 制作: 古賀泰一郎 | 監督・脚本: 佐向大
製作: TOE KICK★12 ライブラリーガーデン オフィス・シロウズ | 製作プロダクション: オフィス・シロウズ | 配給: マーメイドフィルム コピアボア・フィルム | 宣伝: VALERIA マーメイドフィルム

きょうかいし

2018年 | 日本 | カラー | 114分 | スタンドード(一部、VHS) | ステレオ | ©「教誨師」members

<http://kyoukaishi-movie.com/>

～上映にあたって～(主催者より)

教誨師とは、受刑者の心の救済につとめ、彼らが改心できるよう導く人です。映画「教誨師」は、初老の牧師であり死刑囚専門の教誨師である、佐伯保(大杉漣)が6人の死刑囚と向き合う葛藤を描くことで、「なぜ人は生きるのか」という人間の根源的な倫理へも切り込んだ俳優大杉漣の最後の主演映画です。

仙台弁護士会では、死刑制度が抱える人権保障上の問題点を指摘した上で、これまで政府に対し、死刑制度の存廃について、国民が十分議論を尽くし意見を形成するために必要な情報を広く国民に公開し、国民的議論を行うよう繰り返し求めてきました。そしてまた、仙台弁護士会は、市民の間で、死刑存廃の議論が少しでも高まればとの思いから、今回の上映会のように仙台メディアテークで死刑をテーマにした無料映画上映回を2014年度から毎年開催し、今年ではや6回目となります。

今回は、死刑囚の心の救済につとめる教誨師にスポットをあてた映画を上映致します。

これまで死刑制度に関心があった方にも、関心がなかった方にも、「教誨師」を鑑賞したことがある方にもない方にも、是非足をお運びいただき、死刑制度への理解・関心が深まる一助になっていただければ幸いです。